

ミュンヘン 酒まつり

10/5・6 開催

味覚の秋、日本酒で乾杯！

※写真はイメージです。

- 特典1 ご来店のお客様に『樽酒』をサービス。
※お一人様グラス1杯とさせていただきます。
- 特典2 月桂冠のお酒をご注文のお客様に『酒粕料理』を一品ご進呈。

隣接のハウスミュンヘンでも同時開催!!

münchen
ビヤレストラン
ミュンヘン
四条河原町上ル一筋目東入ル
☎0120-06-3505
[営業時間]
11:30~23:00(L.O. 22:20)
www.kyoto-munchen.com



焼き芋
(→ P8)



わたがし
(→ P10)



喫茶
(→ P4)



銭湯
(→ P6)

行ってみたくなる、 応援したくなる、 京都・温故知新スポット

リトルノ世代が子どもの頃に慣れ親しんだ食べものや場所が、
京都の若者たちの手で復活しています。
思わず行ってみたくなる、応援したくなる、
がんばる若者たちの新名所をご紹介します。

取材・文 / 深谷美和 撮影 / 鈴木誠一・橋本正樹

私たちが発行している『ritorno』は、サブタイトルに「55歳からの大人のフリーマガジン」とあるように、その年代の方々を主な読者層と考えたフリーマガジンです。60才をシニアライフの1年目とした場合、準備を5年前からしてもらい、より充実した人生を楽しんでもらいたいという思いをこめており、その世代の方々を親しみをこめて「リトルノ世代」と呼んでいます。最近では、50代の方々はもちろん、30代、40代の若い世代の方々にも手に取っていただいている、とてもありがたいことだと思っています。

リトルノ世代に近付くと、昔慣れ親しんだ場所や空間、食べ物に、強く惹きつけられるようになると思いませんか？ 流行のスポットや豪華な食事よりも、子ども時代の思い出がある場所や、素朴な味が恋しくなるものだと思います。昔ながらの場所や食べ物、時の流れの中で少しずつ消えていたり、姿を変えていたりしているのですが、そんな昔懐かしいものにあえて向き合う若者たちがいるのをご存知でしょうか？ 彼らは消えゆくものを守りたいという熱意や、人が挑戦してこなかったところで勝負してみたいという若い感性で、古きものを蘇らせています。今回は、その若者たちの姿勢と、彼らが作り上げている温故知新のスポットをご紹介します。

今回取材をした移動する竹村商店の竹村さん(→P8)は、こんなことを話していました。「起業といえばIT分野に進む若者が多い現代において、僕たちは真逆の方向に進んでいるのかもしれない。苦しい部分もあるのかもしれないが、あえて昔のコンテンツに色を加えるというのはおもしろいと思います。分母が少ない分野でやっていくということは、競争相手も少ないですし、チャンスが広がっていく可能性があると思っています」。この言葉を聞いて、センスがあるなあ、と共感しました。たとえば竹村さんの焼き芋店、銭湯、それらの場所には、どんなにIT技術が発達しても自動化されない人間らしさのようなものがあるような気がします。良いものは世代を越えて伝わっていく。今回紹介する若者たちの姿を見て、皆さんにもそれを実感していただければと思っています。

(編集長 森田利浩)

行ってみたい、
応援したい、
京都・湯のまち新スポット

銭湯世代と若者両者に
“銭湯”を提案

サウナの梅湯



①「若者が銭湯に！」をテーマに活動する湊三太郎さん。大学時代には梅湯と、上七軒の桜湯でアルバイトもしていた。現在は同年代のスタッフや仲間にも支えられ、作業的にも精神的にとっても楽になったという。②風呂の種類もいろいろ。天然地下水を薪で沸かしている。③昔懐かしさと新しさが同居する。④入浴料は大人430円。シャンプー、ボディソープ、ドライヤーの用意があり、女湯は化粧落としと化粧水も。

⑤ 2017年夏には12時間営業にもトライ。最新情報は公式ツイッターで確認しよう。

近所に銭湯があるという魅力
その土地で継いでいきたい

京都駅の北東、かつて五条楽園とよばれた地にある、「サウナの梅湯」。軒先を見ていると、地元人のほか、若者やカップル、海外からの旅行者など、多様な層が入り込んでいる様子に驚かされる。今は活気のある銭湯だが、一時は廃業の危機に瀕していた。2015年5月に経営を引き継ぎ、必死で現在の状態へもっていったのが、銭湯活動家の湊三太郎さんだ。20代という若さで銭湯を経営する湊さんに思いを聞いた。

「実は僕が生まれ育った地元には銭湯がなくて、梅湯のようなローカルな銭湯になじみがなかったんですね。高校時代に旅先で初めて出合い、本格的に通うようになったのは、京都の大学に進学してから。カフェめぐりをする感覚でいろいろまわりました。地方の銭湯、いわゆる激洗銭湯にはまったのもそれからです。大学で銭湯サークルも立ち上げたんですが、多くの人が興味をもってくれたんですね。そこで、提案すれば若者にも響くものだと感じたんです」

大学卒業後は、アパレル会社へ就職。会社の事業で銭湯経営に携わる夢もあったが、「自分でやった方が早いのではないか」と考えて退職。直後、梅湯が廃業するという話を聞き、経営を

引き継いだ。銭湯は稼働しなくなるとすぐに設備が劣化するという、湊さんにとっても、梅湯にとっても、まさに絶好のタイミングだった。

それまでの梅湯の1日の平均客数は60人、月20万の赤字を出していた。まずはそれをカバーするため、客数を伸ばし、人件費と燃料費を削減するという目標を立てた。仕事は湊さん自身が行うことで人件費を削り、燃料を油から薪に変えた。最初の月から黒字を出せたが、それでも客はなかなか増えず、苦しい日々が続いた。メディアの取材が殺到し、注目を浴びたこともプレッシャーだったという。

「今思えば考えが甘かったと思います。お客さんは一向に増えないし、常連さんからお叱りを受けることも多かった。設備の修理をするなか、浴槽のお湯漏れがどうしても直らず、営業ができないと判断せざるを得ないほどに悪化しました。追い詰められ、1周年でやめる覚悟もしました」

状況が好転したのは、とある職人がお湯漏れを修復してくれたから。高い費用を払っても直らなかったのが、職人による簡単な修理で直り、そこからすべてが上昇したという。湊さんは、

銭湯のイメージを明るくするために工夫を重ねた。外観を賑やかにしたり、番台をカウンターに変えたり、「梅湯新聞」を作って浴室に貼ったりと、常連客はもちろん、新規の客も入りやすい雰囲気作りに取り組んだ。2年目の夏には朝風呂の営業を開始。若者や旅行者を中心に一気に客が増え、努力が目に見えて報われるようになっていった。

2017年夏には、1日平均客数140人を達成。当初から考えれば、夢のような数字だ。

梅湯を軌道に乗せた今、新たに目指しているのは、梅湯をひながたにした、2軒目、3軒目の経営だ。

「銭湯廃業情報が入ると、とても落ち込むんです。防ぐ手法が確立されていれば、その銭湯も続いていたのにと。梅湯の経営もそうですが、誰かがやってくれるのを待つより、まず自分がや

ろうと思うんですね。最初は同業の先輩たちに「やめておいたほうがいい」と言われました。今は応援していただいています。僕は、近所にパッと行けるお風呂があるって、生活に豊かさがある証拠だと思っんですね。知らない人同士でお風呂に入るおもしろさや、入浴に対する熱心さ。実に日本人らしいと思うんです」

自宅に風呂があるのが当然になった現代、銭湯は選択してわざわざ行く場所となった。一銭湯にいい思い出がある人も、そうでない人も、昔のイメージを取り払って一度来てみてほしい。そう言う湊さんは、今日も梅湯に立つ。

サウナの梅湯

●京都市下京区木屋町通上ノ口上ル岩滝町175
●15:30～23:00(8月1～9月末は14:00～26:00)・朝風呂は6:00～12:00 ●木曜休 ●ツイッターアカウントは@umeyu_rakuen



“生前整理”で
快適な生活を
実現しませんか？

元気なうちに、財産や身の回りの品々を整理しておこうという「生前整理」。子どもが巣立つなどライフスタイルの変化に合わせて、不要なモノを処分して、身軽に第二の人生をスタートさせる生き方が注目されています。おたからや京都北山店では、自宅に眠る宝飾品、ブランド品、絵画、骨董品などの「お宝」を高価買取で応援しています。

高価買取

金・宝石・ブランド品・時計・切手
古銭・骨董品・美術品・お酒 etc.

出張・宅配査定 無料



おたからや 京都北山店



地下鉄北山駅1番出口すぐ
京都市左京区下鴨前萩町13 1F

0120-123-487

営業時間 10:00～19:00 定休日 日曜日
京都府公安委員会許可 第611281430019号
酒類販売業免許 平成28年10月28日 [左京法第371号/左京税務署]